



た ま し ょ う

こ
玉小っ子

<http://www.town.tamamura.ed.jp/tamamura-e/>

令和4年度 玉村小学校
学校だより 第17号
2022年11月28日

早いもので2学期も残り1か月となっています。朝晩は少し寒くなっていますが、快晴の日も多く、学校では元気いっぱい活動している子どもも姿が見られます。学習や運動、またクラスの和や友達への思いやりなど、様々な面で子どもたちの成長が見られます。自分の成長を自覚させ、さらにステップアップできるようにしていきたいと思えます。今週からは二者面談も始まります。2学期の学校でのがんばりや成長したこと、今後の期待などをお話したいと思えます。ご家庭からは、ご家庭での様子、頑張り、心配事などをお話していただければ思えます。子どもが自分のよさを発揮し、成長してほしいという願いは一緒だと思います。学校とご家庭で協力して、子どもを支援していける機会としたいと思います。

自分の目標に向かって ～校内持久走大会～

11月24日(木)に校内持久走大会が開かれました。玉小では、10月26日～を持久走月間とし、20分休みや体育集会に持久走を行い、持久力を高める期間としています。タイムを縮めることを目的とする長距離走と違い、持久走は自分のペースで長い距離を走ることを目的としています。だから、一人一人の目標は違います。長い距離を走ることが得意な子もいれば、苦手な子もいます。タイムを縮めたり順位を上げたりすることを目標とする子もいれば、完走することを目標にする子もいます。でも、目標は違っても、それに向かって努力することは一緒です。その過程が大切なのだと思えます。

校内持久走大会は、持久走月間のまとめとして実施されます。なにより参加した全員が完走したことが素晴らしいです。風が強く、タイムを伸ばすことは難しい環境でしたが、最後まで全力を出し切ろうとする姿もたくさん見られました。

沿道でのたくさんの応援ありがとうございました。また、交通指導のお手伝いをして下さった交通指導員さん、保護者の方、ありがとうございました。今回は玉村交番の方もパトロールしてくれました。(子どもと一緒に走ってくれたお巡りさんもありました)たくさんの方のご協力が無事に開催できたことに感謝申し上げます。



英語でコミュニケーションできる楽しさ～県立女子大との交流～

11月18日に6年生の英語で県立女子大学の先生やALT、学生さんをゲストティーチャーとして招いて授業をしました。地球に住む生き物について調べたことを英語で発表し、英語で質問を受けたりして交流します。これまで子どもは交流の相手を、クラス内→リモートで中央小の6年生、と広げました。今回は、直接外部の方へと、さらに広がりました。最初は緊張していましたが、だんだんと英語でのコミュニケーションを楽しむことができました。「ペンギン見たことある?」「シーパラで見た」「シーパラ行ったの?」「修学旅行で」「シーパラで他に何した?」「ジェットコースターに乗った」「すごい!」(全部英語です)発表の後の会話もはずんでいたグループも多かったです。自分の英語が通じた時はとてもうれしいと思えます。英語でコミュニケーションしようとする意欲もますます高まったと思えます。



心豊かな子どもに ～道徳教育の取組～

11月16日に道徳科の授業を、群馬県内の先生や大学や教育委員会の先生などに公開し、研究会を行いました。

「道徳」と聞くとどんなことを思い浮かべるでしょうか?もしかしたら、先生がお説教する授業を思い浮かべるかもしれません。「こうするべきだ」「こうすることがよいことだ」と教えられることを「道徳」と感じるかもしれません。

道徳教育は学校生活の中の様々なところで行われています。例えば、クラスの友達と接する中で思いやりを、持久走の練習から努力する大切さを、掃除や当番活動から働くことのよさを、あいさつを交わす中で礼儀を学んでいきます。そういう意味で、道徳教育は全ての教育活動で行われています。「思いやり」「努力の大切さ」「働くことのよさ」「礼儀」などは、道徳的な価値と言います。子どもたちは様々な活動をする中で、道徳的価値に気づいていきます。玉小では、行事や各教科の授業でも道徳的価値を意識して行っています。家庭でも同じだと思います。お手伝いをして、家族に「ありがとう」と言われれば、家族で協力し合うことの大切さに気づいていくのだと思います。

道徳的価値について改めて考えていく授業が、道徳科の授業です。道徳的価値は低学年で19項目、中学年で20項目、高学年で22項目と学習指導要領で定められています。「正直 誠実」「個性の伸長」など自分自身に関すること、「親切 思いやり」「感謝」など人との関わりに関すること、「規則の尊重」「公正 公平」など集団や社会に関すること、「生命の尊さ」「自然愛護」など、生命や自然との関わりに関することです。道徳には教科書があり、教材文(読み物)がのっています。授業では、教材文をもとに道徳的価値を考えていきます。教材文は国語のように物語として完結しているものばかりではなく、途中で終わっているようなものも多くあります。

11月16日におこなった道徳の授業の例を紹介します。1年生の「どんぐり」というお話は、「学校からの帰り道、道草をしてどんぐりを拾って帰りました。帰りが遅くて心配したお母さんに対して、「学校で遊んでいて、先生もいいと言った」と嘘をつきます。すると、ランドセルからどんぐりがこぼれてしまいます。「どんぐりは友達からもらった」とさらに嘘をつきます。」そこで、お話は終わりです。考えさせたい道徳的価値は「正直」です。子どもは「うそをついてはいけない」と分かっています。でも嘘をついてしまいます。そして、何で嘘をついてはいけないかを聞くと、ほとんど子は「おこられるから」と答えました。この授業では、「うそをつくとどんな気持ちになるだろう」というめあてで、考えていきました。嘘をつく場面を劇として提示しながら、嘘をついた時の気持ちを考えました。となりの子や近くの子、クラス全体でいろいろな意見を出し合いながら、「嘘をつくと自分の気持ちが嫌な気持ちになる」ことに気づいていきます。そしてこの後自分ならどうするかを考えていきます。この段階では、教材文からは離れて、自分のこととして考えています。「正直に言う」、「言えない」という2つの意見、もしかしたら、「正直に言いたいけど、言えないかもしれない」という考えもあるかもしれません。正解はありません。いろいろな考えを出し合いながら、自分のこととして真剣に道徳的価値と向き合うことが重要なのです。最後に、授業の振り返りをします。「嘘をつかないようにしたいけど、ついしてしまうかもしれない。でも、正直に言うようにしたい。そうすればいい気持ちになれる。」子どもたちは、授業を通して「正直」でいることのよさに気づいた子も多いようでした。

よいと思っけていてもすぐには行動に移すことは難しいことです。でも、道徳的価値について友達のいろいろな考えを聞き、自分のこととして考えていく中で、心は耕されていきます。その積み重ねで、少しずつ行動も変わっていくと思います。

